

《履修上の留意事項》英語を共通言語とした研修になるので、英会話力の向上と英語の専門用語の修得に努めること。  
実習に際して、歯科臨床のしっかりとした知識を身につけ臨むこと。

《担当者名》特任教授 / 古市 保志 furuichi@ 教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 教授 / 斎藤 隆史 t-saito@  
教授 / 永易 裕樹 nagayasu@ 教授 / 長澤 敏行 nagasawa@ 教授 / 伊藤修一 shu@  
准教授 / 佐藤 圭史 keiji\_sato@

## 【概要】

海外における歯学部又は病院に短期間滞在し（1週間程度）、実習主体の臨床研修を受ける。歯科臨床の知識を深め技術を高めるのみならず、海外での生活の中で国際人としての素養を身につける。

## 【学修目標】

訪問地の歯科臨床の特徴について簡単に説明する。  
訪問地の歯科医療従事者と簡単なコミュニケーションをとる。  
国籍に関わらず、友好的に国際的な人間関係を築く。

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

海外研修の発表会の内容により評価する。

## 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

## 【実務経験】

古市保志（歯科医師・海外留学経験）、安彦善裕（歯科医師・海外留学経験）、斎藤隆史（歯科医師・海外留学経験）、永易裕樹（歯科医師・海外留学経験）、長澤敏行（歯科医師・海外留学経験）、伊藤修一（歯科医師・海外留学経験）、

## 【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師および海外留学経験での実務経験を活かし、歯科治療の際の外国人患者への対応や、外国で歯科治療する際の患者対応の方法について、効果的な教育が期待できる。また、学生自ら外国の歯科医療に触れることにより、グローバルな視点から本邦の歯科医療を考察できることになる。